

マメ科牧草病害文献目録

誌名	牧草病害編
ISSN	
著者名	
発行元	農林統計協会
巻/号	8号
巻号補足	
掲載ページ	p. 173-207
発行年月	1981年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



B マメ科牧草病害文献目録

1. 秋田 滋(1975)草地におけるマメ科牧草類ウイルス病の発生生態. I. 日植病報 41(3): 283 (講要)
2. 秋田 滋・西原夏樹(1978)アカクローバうどんこ病の本邦における発生状況と、ガラス室内実験による病菌の寄主範囲. 日植病報 44(3): 351 (講要)
3. 葵 一八・内村忠道(1962)九州の中部平坦地および高冷地人工草地における飼料作物の病害発生状況. 九州農業研究 24: 154-155
4. 荒木隆男・佐藤倫造・島貫忠幸(1970)マメ科牧草の永続性に関する土壌病原菌について. 日植病報 36(5): 362 (講要)
5. 荒木隆男・佐藤倫造(1973)マメ科牧草根ぐされ症に起因する病原菌の接種条件について. 日植病報 39(2): 154 (講要)
6. 荒木隆男・松本直幸・島貫忠幸(1977)アルファルファのフィトフトラ根腐病. 日植病報 43(3): 338 (講要)
7. 荒木隆男(1979)飼料作物病害の現状と問題点—特に寒冷地を中心にして、植物防疫 33(3): 121-125
8. 麻生武夫・今井三子(1963)レンゲの種子に混在するレンゲ菌核病菌の菌核の殺滅を目的とした種子の硫酸処理. 日植病報 28(5): 243-249 (英文)
9. 明日山秀文・小室康雄・正田宏二(1955)Alfalfaモザイク・バイラスに関する研究. 栃内・福土教授還暦記念論文集: 101-107
10. 明日山秀夫・飯田俊武編(1967)日本作物ウイルス病総覧. 371 p. 農業技術協会. 東京.
11. ト蔵梅之丞(1915)紫雲英萎縮病の被害. 病虫雑 2(6): 555 (雑報)
12. ト蔵梅之丞(1921)紫雲英の種子中に混ざる菌核の除去に関する試験成績. 病虫雑 8(8): 405-407
13. ト蔵梅之丞(1931)紫雲英増収策と菌核病の防除. 病虫雑 18(2): 116-119
14. ト蔵梅之丞(1935)紫雲英の菌核病と其の防除. 病虫雑 22(9): 690-700
15. 千葉一美(1972)ダイズ矮化病と対策. 牧草と園芸 20(7): 1-3.
16. 土居義二・寺中理明・与良 清・明日山秀夫(1967)クワ萎縮病. ジャガイモてんぐ巣病, Aster yellows 感染ベチュニアならびにキリてんぐ巣病の罹病茎葉節節に見出されたMycoplasma様(あるいはPTL様)微生物について. 日植病報 33(4): 259-266

17. 土居養二・新海 昭・与良 清・明日山秀文(1967)サツマイモてんぐ巢病および
マメ類てんぐ巢病の罹病茎葉に見出される *Mycoplasma* 様微生物について、日
植病報 33(5) : 344 (講要)
18. 江原 薫(1960)飼料作物学(上巻)、訂正5版、552p、養賢堂、東京
19. 遠藤 茂(1927)シロツメクサの銹病について、病虫雑 14(7) : 408-411
20. 遠藤 茂(1928)しろつめくさより分離せる白絹病菌に関する研究、特に稲其の他
の作物に対する病原性と生活力に就ての考察、日本微生物病理学雑誌 22 : 1851
-1866
21. 遠藤 茂(1938)日本ニ於ケル白絹病菌ノ寄主目録補遺、宮崎高農学術報告 10 :
65-82 (英文)
22. 遠藤 茂(1968)クリムソンクローバ株枯病(仮称)について、日植病報 34(3) :
182 (講要)
23. 遠藤 茂・高畑益久・兼平 勉(1973)クリムソンクローバ葉ぐされ病菌、イネ
紋枯病菌ならびに *Rhizoctonia solani* のイネ葉鞘接種による病原性と病斑型
の比較、日植病報 39(2) : 175 (講要)
24. 遠藤 茂・兼平 勉(1974)イネ紋枯病菌ならびにジャガイモ黒あざ病菌のジャガ
イモおよびイネに対する病原性と病斑型について、日植病報 40(2) : 151 (講要)
25. 遠藤 茂・篠原正行・山根一晃(1974)クリムソンクローバ葉腐病菌に関する研究
-I、クリムソンクローバ葉腐病菌とイネ紋枯病菌 (*Corticium sasakii*
(Shirai) Matsumoto) の土壌接種によるマメ科牧草、イネ科牧草ならびにイ
ネに対する病原性の比較、日大農獣医学術報告 31 : 124-133
26. 遠藤 茂・篠原正行・榎 政男・鈴木啓子・小林 豊(1974)クリムソンクローバ
葉腐病菌に関する研究-II、クリムソンクローバ葉腐病菌、イネ紋枯病菌
(*Corticium sasakii* (Shirai) Matsumoto) ならびに *Rhizoctonia solani*
Kühn の培養的性質と菌核の形態比較、日大農獣医学術報告 31 : 134-149
27. 遠藤 茂・篠原正行・高畑益久・兼平 勉(1974)クリムソンクローバ葉腐病菌に
関する研究-III、クリムソンクローバ葉腐病菌、イネ紋枯病菌 (*Corticium*
sasakii (Shirai) Matsumoto) ならびに *Rhizoctonia solani* Kühn のイ
ネ葉鞘およびクリムソンクローバに対する病原性と病斑型の比較、日大農獣医学
術報告 31 : 150-165
28. 藤井 溥・長江春季・木原清光(1964) *Sclerotinia sclerotiorum* (Lib.)
de Bary における菌核の大きさについて、九州病虫研究会報 10 : 86-88
29. 藤井 溥・長江春季・木原清光(1964) *Sclerotinia sclerotiorum* における菌

系について、日植病報 29(2) : 70 (講要)

30. 藤井 溥・長江春季・木原清光(1966) *Sclerotinia sclerotiorum* における菌系について (II)、日植病報 32(2) : 68-69 (講要)
31. 藤黒興三郎(1919) 台湾産栽培植物の銹病菌に就て(2)、病虫雑 6(6) : 444-448
32. Fujioka, Y. (藤岡保夫) (1952) List of crop diseases in Japan. Economic and Scientific Section, Natural Resources Division Preliminary Study No. 73 Vol. I GHQ 212p. Tokyo Japan.
33. 藤岡保夫(1961)飼料作物病害に関する研究(I)、アカロメクサ輪紋病菌の殺菌剤及び紫外光線に対する反応、広島農短大研報 1(4) : 1-3
34. 藤岡保夫(1962)広島県下の有用植物の病原菌目録、日菌報 3(1-6) : 61-66 (英文)
35. 深野 弘・横山佐太正(1952)蚕豆・豌豆・カラスノエンドウの壊疽性パイラス病(予報)、九州農業研究 10 : 133-134
36. 福士貞吉(1930)蚕豆モザイク病に就て、病虫雑 17(11) : 707-712
37. 福士貞吉(1930)蚕豆モザイク病に就て(2)、病虫雑 17(12) : 779-784
38. 福士貞吉(1937) 荳科植物のモザイク病の伝染と蚜虫との関係(1)、札幌農林会報 29(139) : 189-216
39. 福士貞吉(1947)荳科植物のモザイク病の伝染と蚜虫との関係(2) 札幌農林会報 30(147) : 399-418
40. 福士貞吉・四方英四郎(1955)ネナンカズラ及びマメダオンによる馬鈴薯天狗巢病の伝染、北大農邦文紀 2(3) : 47-51
41. 福士貞吉・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・田中一郎・大島信行・西尾美明(1955)馬鈴薯天狗巢病の虫媒伝染に関する研究、北大農邦文紀 2(3) : 52-60
42. 福士貞吉・菅野知也(1956)馬鈴薯天狗巢病の接種試験について、日植病報 21(1) : 33 (講要)
43. 福士貞吉(1962)植物ウイルスに関する諸問題(22)、農及園 37(1) : 79-82
44. 福代和子(1974)アルファルファ茎枯病の発生生態、日草誌 20(別号2) : 54-55
45. 福代和子(1978)アルファルファ茎枯病の発生生態(第1報)、茎枯病菌の生育と温度との関係、近畿中国農研 55 : 33-35
46. 舟山広治(1971)日本植物病原細菌目録、64p、著者出版、旭川市。
47. 後藤和夫(1960)白絹病、土壤病害鑑別指針(農林省振興局研究部) : 17-18
48. 後藤正夫(1956) *Pseudomonas cichorii* によるクロウバの葉枯細菌病(新称)、農及園 31(10) : 1415-1416

49. 後藤正夫・岡部徳夫(1963) *Pseudomonas andropogonis* の一系統によるクローバの細菌病について. 日植病報 **28** (5) : 286
50. 後藤正夫・岡部徳夫(1965) Bacterial plant diseases in Japan. X. Bacterial black spot disease of clover caused by a strain of *Pseudomonas andropogonis*. 静岡大農研報 **15** : 45-47
51. 原 摂祐(1919)大正7年に於ける静岡県の病虫学界. 病虫雑 **6** (4) : 292-294
52. 原 摂祐(1920)紫雲英の結縷病. 病虫雑 **7** (4) : 198-199
53. 原 摂祐(1928)東亜菌類誌. 静岡県農会報 **361** : 22
54. 原 摂祐(1929)紫雲英の新病害斑点病. 農及園 **4** (7) : 814
55. 原 摂祐(1932)実験作物病理学. 975 p. 養賢堂. 東京
56. 原 摂祐(1936)日本害菌学, 358 p. 養賢堂. 東京
57. 原 摂祐(1954)日本菌類目録, 447 p. 日本菌類学会. 岐阜川上村
58. 橋本 保・関沢 博(1962)牧草の病害に関する研究. その1. 宮城県における種類とその発消長. 北日本病虫研会報 **13** : 73-74
59. 橋岡良夫(1952)レンゲ作の安定と病害. 農業技術 **7** (11) : 24-26
60. 橋岡良夫(1954)紫雲英病害の生態と防除(1). 農及園 **29** (8) : 1015-1018
61. 橋岡良夫(1954)紫雲英病害の生態と防除(2). 農及園 **29** (9) : 1150-1154
62. 橋岡良夫・鈴木幸雄(1954)紫雲英菌核病菌の系統と菌核病の被害度に関する栽培条件. 岐阜大農研報 **3** : 1-12 (英文)
63. 橋岡良夫・池上八郎(1955)紫雲英菌核病菌菌核に対する種子塗抹消毒. 日植病報 **20** (1) : 43-44 (講要)
64. 橋岡良夫・池上八郎・白木節夫(1955)紫雲英菌核病の薬剤防除, 特に種子粉衣消毒に就いて. 岐阜大農研報 **5** : 21-30 (英文)
65. 橋岡良夫・池上八郎(1955)紫雲英菌核病に対する塗抹消毒. 農及園 **30** (8) : 1101-1102
66. 橋岡良夫(1955)種子混入菌核の新処理法ーレンゲ菌核病の防疫. 農薬研究 **2** (2) : 26-30
67. 橋岡良夫・池上八郎(1956)菌核病菌菌核に対する紫雲英種子塗抹消毒に関する追加実験. 岐阜大農研報 **6** : 50-57 (英文)
68. 橋岡良夫・池上八郎(1957)紫雲英菌核病菌の菌核に対する有機水銀剤とサーラム剤の殺菌作用. 岐阜大農研報 **8** : 1-7 (英文)
69. 橋岡良夫・池上八郎(1957)紫雲英菌核病に対する種子塗抹消毒剤としての有機水銀とサーラム. 農及園 **32** (8) : 1211-1212

70. 橋岡良夫(1958)荳科牧草の菌核病の対策. 畜産の研究 12 (11) : 1376 - 1377
71. 逸見武雄(1919)ピレノベデザ菌の寄生に基因するアルファルファの黄斑病. 病虫雑 6(9) : 784 - 785 (文献紹介)
72. 日高 醇・平井篤造・村山大記・与良 清(1960)植物ウイルス病—実験法と種類 400p. 朝倉書店. 東京
73. 日野 巖(1929)菌核病菌の小型分生孢子, とくにその分生孢子時代について. 宮崎高農学術報告 1 : 67-90 (ローマ字文)
74. 日野 巖(1930)紫雲英菌核病菌の菌核. 宮崎高農学術報告 2 : 93-112 (英文)
75. 日野 巖(1933)モザイク及びモザイク類似被害植物目録. 宮崎高農学術報告 5 : 97-111 (英文)
76. 日野稔彦(1960)ヘアリーベッチのモザイク病. 日植病報 25 (1) : 21 (講要)
77. 日野稔彦(1960)コモンベッチから分離した virus について. 日植病報 25 (1) : 66-67 (講要)
78. 日野稔彦(1960)ササゲモザイク病に関する研究. 日植病報 25 (4) : 178-186 (英文)
79. 日野稔彦(1961)コモンベッチ葉脈壊疽ウイルスについて. 日植病報 26 (5) : 222. (講要)
80. 日野稔彦・井上忠男・井上成信・光畑興二(1968)レンゲ萎縮病ウイルス. 農学研究 52 (1) : 1-9
81. 平松芳市(1920)アルファルファの冠瘻病. 病虫雑 7 (2) : 112 (文献紹介)
82. 平根誠一(1953)積雪下に於ける紫雲英の Pythium 菌に因る新病害(仮称褐色雪腐病)について. 日植病報 17 (3-4) : 163-164 (講要)
83. 平根誠一(1953)雪下に於ける Pythium 属菌の種類及分布と病原性. 北陸病虫研究会報 3 : 14-15
84. 平根誠一(1953)積雪下に於ける紫雲英の一新病害(新称褐色雪腐病)について. 新潟農試彙報 3 : 27-33
85. 平根誠一(1955)麦類褐色雪腐病の防除に関する研究. 農業改良技術資料 60 : 1-86
86. 平根誠一(1960)麦類褐色雪腐病の研究, 特に病原菌の分類について. 日菌報 2 (5) : 82-87
87. 平田幸治(1941)ツメクサ類の菌核病菌に関する研究. 教育農芸 10 (6) : 662-663 (文献紹介)
88. 平塚直秀(1927)阿寒湖附近に産する銹菌類. 札幌博物会報 9 (2) : 225-238

89. 平塚直秀(1930) Erster Beitrag zur Uredineen-flora von Siid sachalin. 鳥取農専学 1 : 68-98
90. 平塚直秀・吉田政治(1930)蚕豆銹病菌及其の類似菌に就いて(1). 病虫雑 17 (9) : 571-578
91. 平塚直秀・吉田政治(1930)蚕豆銹病菌及其の類似菌に就て(2). 病虫雑 17 (10) : 635-642
92. 平塚直秀・吉田政治(1930)蚕豆銹病菌及其の類似菌に就て(3). 病虫雑 17 (11) : 716-721
93. 平塚直秀(1931)鳥取高農構内に産する黒穂菌及び銹菌の種類. 鳥取高農校友会誌「草原」 11 : 93-98
94. 平塚直秀(1933) Studies on Uromyces fabae and its related species. 日本植物輯報 6 : 329-380
95. 平塚直秀(1935) Uredinales collected in Korea. I. 植雑 49 : 145-152
96. 平塚直秀・飛永英次(1935)日本産ハギ及びヤマハズサウ両属植物に寄生する Uromyces 属菌に就て. 日植病報 4 (3-4) : 145-171
97. 平塚直秀(1937)日本産ウロミケス属菌. 植研雑 13 : 729-747
98. 平塚直秀(1941)鳥取高農構内に於て採集されたる銹菌類. 鳥取農学会報 8 : 111-116
99. 平塚直秀(1952) Uredinales of Kiushu. 東京教育大農紀 1 : 1-95
100. 平塚直秀(1952) 2, 3 の有用植物銹病の新発生地について. 日植病報 16 (3-4) : 183 (講要)
101. 平塚直秀(1955) 植物銹菌学研究. 382p. 笠井出版社. 東京
102. 平塚直秀(1960) A provisional list of Uredinales of Japan proper and the Ryukyu Islands. 琉球大農家政工学部学術報告 7 : 189-314
103. 平塚直秀(1973)日本列島所産 Uromyces 属菌の分類学的研究. 菌草研報 10 : 1-98 (英文)
104. 樋浦光男・樋浦 誠(1962)飼料作物に寄生する Sclerotium rolfsii Sacc. の炭水化合物化学.(第1報). トレハロースの分離と確認. 酪農学園大紀 1 (2) : 234-238
105. 北海道農業試験場牧草第3研究室(1971)北海道におけるイネ科およびマメ科牧草の病害発生調査. 北農 38 (1) : 1-23. 図版

106. 本田雄一・柚木利文(1970)クローバ菌核病に関する研究. 1.菌核の発芽に及ぼす温度の影響. 日植病報 36(5): 347 (講要)
107. 本田雄一・柚木利文(1971)クローバ菌核病の被害. 日植病報 37(3): 168 (講要)
108. 本田雄一・柚木利文(1973)ラジノクローバ菌核病に関する研究. 第1報, ラジノクローバ菌核病の被害および感染経路. 東北農試研報 46: 143-160
109. 本田雄一・柚木利文(1974)クローバ菌核病 (*Sclerotinia trifoliorum* Erik.) の子のう盤形成に及ぼす光の影響. 日植病報 40(2): 124 (講要)
110. 本田雄一・柚木利文(1974)クローバ菌核病菌 (*Sclerotinia trifoliorm* Erik.) の柱状体の趨光性に及ぼす単色光の影響. 日植病報 40(3): 170 (講要)
111. 本田雄一・柚木利文(1975)積雪下におけるクローバ菌核病の病勢伸展. 日植病報 41(1): 89 (講要)
112. 本田雄一・柚木利文(1975)ラジノクローバ菌核病に関する研究. 第2報. 積雪下におけるラジノクローバ菌核病の病勢伸展. 東北農試研報 50: 87-97
113. 本田雄一・柚木利文(1975) *Sclerotinia trifoliorum* Eriks. の子のう盤の成熟に有効な光の波長域について. 日植病報 41(4): 383-389 (英文)
114. 本田雄一・柚木利文(1976)ラジノクローバ菌核病に関する研究. 第3報. ラジノクローバ菌核病の調査基準. 東北農試研究速報 20: 19-24
115. 本間ヤス(1937) *Erysiphaceae of Japan*. 北大農紀 38(3): 183-461
116. 堀 正侃(1936)昭和11年に於ける麦, 紫雲英の菌核病, 麦条斑病, 苗代期の水稻病害発生状況. 日植病報 6(2): 139-144
117. 堀 正太郎(1901)紫雲英ノ菌核病. 農商務省農試報告 18: 17-34
118. 堀 正太郎(1916)植物病害講話. 第1編. 228p. 成美堂, 東京
119. 堀 正太郎(1916)植物病害講話. 第2編. 322p. 成美堂, 東京
120. 茨木忠雄・徳永友三・遠藤昭二(1963)福島県に発生する飼料作物病害について. 北日本病虫研会報 14: 62
121. 茨木忠雄・徳永友三(1964)牧草病害の薬剤防除について. 北日本病虫研会報 15: 179-181
122. 茨木忠雄・小野正光・佐藤洋孝(1968)栽培条件と牧草病害発生との関係. 東北農業研究 10: 282-285
123. 出田 新(1909)日本植物病理学(上). 344p. 裳華房, 東京
124. 出田 新(1911)日本植物病理学(下). p. 345-935. 裳華房. 東京
125. 出田 新(1923)続日本植物病理学(上). 398p. 裳華房, 東京
126. 出田 新(1926)続日本植物病理学(下). p. 399-1231. 裳華房, 東京

127. 飯田 格(1954)紫雲英菌核病について. 植物防疫 8(1) : 21-23
128. 飯田 格・鈴木幸雄(1955)菌核形成と栄養源及び他菌の影響について. 日植病報 20(1) : 44 (講要)
129. 飯田 格・鈴木幸雄(1955)レンゲ菌核病菌の子のう盤形成について. 北陸農業研究 3(1) : 62-66
130. 飯田 格・鈴木幸雄(1956)レンゲ菌核病菌菌糸発育と石灰との関係. 北陸病虫研究会報 4 : 51-52
131. 飯田 格・鈴木幸雄(1957)レンゲ褐色雪腐病に関する研究. 日植病報 22(1) : 17 (講要)
132. 飯田 格・鈴木幸雄(1958)レンゲの褐色雪腐病に関する研究. 北陸農業研究 3(2) : 51-60
133. 飯田 格・斉藤 正(1958)ベッチ類の3種の病害について. 北陸農業研究 3(2) : 35-49
134. 飯田 格(1956)レンゲの病害とその防除法. 農及園 31(10) : 1381-1384
135. 飯田 格(1960)飼料作物病害についての問題点. 日草誌 6(2) : 87-89
136. 飯田 格(1961)専門別にみた歩みと展望-病害. 日草誌 6(3) : 164-165
137. 飯田 格(1964)米国における飼料作物病害研究の現状. 北日本病虫研会報 15 : 1-4
138. 飯田 格(1964)飼料作物の雪ぐされ病の防ぎ方. 農及園 39(12) : 1853-1856
139. 飯田 格(1965)秋まき飼料作物の雪ぐされ対策. 牧草と園芸 13(9) : 8-10
140. 飯田 格・飯塚典男・高橋広治(1966)単混播と牧草病害発生との関係. 北日本病虫研会報 17 : 58
141. 飯田 格・高橋広治(1967)ラジノクローバの生育度および環境要因と汚斑病発生との関係. 日草誌 13(3) : 199-204
142. 飯田 格・高橋広治・飯塚典男(1969)牧草病害に関する研究. I. 東北地方における牧草病害の発生調査. 東北農試研報 37 : 1-14
143. 飯塚典男・飯田 格(1961) Ladino clover から分離した Alfalfa mosaic virus について. 日植病報 26(2) : 69 (講要)
144. 飯塚典男・飯田 格(1961) White clover mosaic virus について. 北日本病虫研会報 12 : 58-59
145. 飯塚典男・飯田 格(1962)レッド・クローバから分離したウイルスについて. 日植病報 27(2) : 83. (講要)

146. 飯塚典男・飯田 格(1962)アルファルファ・モザイク病の雑草発生. 北日本病虫
研究会報 13 : 75-76
147. 飯塚典男・飯田 格(1963)ラジノクローバ／アルファルファモザイク病における
病徴の変異. 北日本病虫研究会報 14 : 65-66
148. 飯塚典男・飯田 格(1964)アルファルファモザイクウイルス (AMV) の抗血清に
ついて. 北日本病虫研究会報 15 : 70
149. 飯塚典男・飯田 格(1965)ホワイトクローバモザイクウイルスに関する研究. 日
植病報 30(1) : 46-53 (英文)
150. 飯塚典男・飯田 格(1965)アルファルファモザイクウイルスの系統について. 日
植病報 30(2) : 89 (講要)
151. 飯塚典男・飯田 格(1966)アルファルファモザイクウイルスの干渉について. 日
植病報 32(5) : 308 講要)
152. 飯塚典男(1967)牧草から分離されたキュウリモザイクウイルス (CMV) の 1 系統.
北日本病虫研究会報 18 : 70
153. 飯塚典男・飯田 格(1969)牧草病害に関する研究. III. アルファルファモザイク
ウイルスによるラジノクローバのモザイク病. 東北農試研報 37 : 43-122
154. 飯塚典男(1974)東北地方におけるシロクローバのウイルス病に関する研究. 東北
大学博士論文
155. 飯塚典男・柚木利文(1975)マメ類ウイルス病感染葉の電子顕微鏡による観察. 日
植病報 41(1) : 91 (講要)
156. 飯塚典男・柚木利文(1978)シロクローバの萎縮症状について. 日植病報 44(1) :
70 (講要)
157. 池上八郎(1958)レンゲ菌核病菌菌核の発芽に及ぼす光線の影響. 日植病報 23(1) :
15 (講要)
158. 池上八郎(1959) レンゲ菌核病菌の子のう盤の成熟に及ぼす光線の影響. 日植病報
24(5) : 273-280
159. 池野早苗(1935) Alfalfaの子苗立枯病の発生と土壤酸度との関係. 日植病報 5(2)
: 187-188 (抄録)
160. 今井三子・麻生武夫(1962)レンゲ菌核病菌の菌核の発芽に及ぼす硫酸の影響. 日
植病報 27(5) : 223-230 (英文)
161. 稲波 進・鈴木信治(1974)アルファルファにおける白絹病抵抗性の品種間差異.
日草誌 20 (別号 1) : 74-75

162. 稲波 進・藤本文弘・中島紘一(1979)アルファルファにおける白絹病抵抗性品種の育成—育成系統の抵抗性検定. 日草誌 25 (別号): 201—202
163. 井上忠男・小室康雄・明日山秀文(1952)キュウリ・モザイク病バイラスに関する研究. IV. alsike clover から分離された strain について. 日植病報 16 (3—4): 181—182 (講要)
164. 井上忠男(1964)本邦のマメ科植物に発生するウイルスの種類およびこれらの判別方法. 農学研究 50 (3): 103—116 図版
165. 井上忠男(1965)White clover mosaic virusによるエンドウのウイルス病. 農学研究 51 (1—2): 1—7
166. 井上忠男(1965)エンドウの種子伝染モザイクウイルス. 日植病報 30 (5): 300 (講要)
167. 井上忠男・井上成信・光畑興一(1965)マメアブラムシで永続伝搬される エンドウ、ソラマメのウイルス病. 日植病法 30 (5): 300 (講要)
168. 井上忠男・井上成信・光畑興二(1968)レンゲ萎縮病ウイルスによるエンドウおよびソラマメの萎黄病. 日植病報 34 (1): 28—35
169. 井上忠男(1969)日本マメ科植物のウイルスの分類同定に関する研究. 日植病報 35 (3): 156—158 (学会賞受賞講要)
170. 井上忠男(1969)ナンキンマメおよびエンドウに発生するナンキンマメ斑紋ウイルス (Peanut mottle virus). 農学研究 52 (4): 159—164
171. 井沢弘一・但見明俊・西原夏樹・大森昭一朗・亀岡暄一(1971)マメ科牧草黒かび病菌 (*Rhizoctonia leguminicola*) によるヤギの流えん (誕) 症状の発現について. 農林省畜試研報 24 : 59—65
172. 井沢弘一(1972)牧草地の重要病害. 葉腐れ病とその対策. デーリイマン 22 (12): 36—37
174. 井沢弘一(1973)マメ科牧草の黒かび病とそれを摂食して起る家畜の流えん (誕) 症状. 畜産の研究 27 (12): 1479—1482
175. 井沢弘一(1974)葉腐病の発生が草地の動態に及ぼす影響. 日植病報 40 (3): 170 (講要)
176. 井沢弘一・西原夏樹(1975)ラジノクローバの化学成分に及ぼす汚斑病の影響. 日植病報 41 (1): 118 (講要)
177. 井沢弘一・西原夏樹(1975)飼料価値に及ぼす病害の影響, III, 汚斑病によるラジノクローバの化学成分の変化. 草地試研報 7 : 99—106
178. 井沢弘一(1976)病害による牧草飼料価値の低下. 植物防疫 30 (4): 164—170

178. 井沢弘一(1977)ラジノクローバの化学成分に及ぼす黄斑モザイク病の影響. 日植病報 43(3) : 364 (講要)
179. 井沢弘一(1976)葉腐病による刈取り草地の荒廃と草種との関係. 日植病報 42(3) : 340 (講要)
180. 石山信一・向 秀夫(1941)植物病原細菌誌. 840 p. 明文堂. 東京
181. 石山哲爾(1936)樺太産農作物病害雑記(3). 病虫雑 23(5) : 330-337
182. 石山哲爾(1936)樺太産農作物寄生菌類目録. 札幌農林会報 28(131) : 1-20
183. 板野秀次郎(1934)関東産の露菌(Peronospora) 日植病報 4(1-2) : 89-92 (講要)
184. 伊藤誠哉(1922) Uromyces of Japan. 北海道大農紀 11(4) : 211-287 図版
185. 伊藤誠哉(1936)大日本菌類誌, 1. 藻菌類. 340 p. 養賢堂. 東京
186. 伊藤誠哉(1938)大日本菌類誌, 2(2)担子菌類, 銹菌目, 層生銹菌科. 249 p. 養賢堂, 東京,
187. 伊藤誠哉(1950)日本菌類誌. 2(3)担子菌類, 銹菌目, 柄生銹菌科, 不完全銹菌. 435 p. 養賢堂. 東京
188. 伊東達雄(1961)水銀粉剤によるレンゲ雪ぐさの防除. 農業技術 16(4) : 167-170
189. 伊東達雄・宮本松太郎・沢 豊則(1961)エチル磷酸水銀によるレンゲ雪ぐさの防除. 日草誌 7(1) : 27-31
190. 岩垂 悟・佐々木三男・内藤中人(1943)満洲国農作物病害目録. 満洲国立農試報告 45 : 1-223
191. 岩山新二(1931)紫雲英菌核病の被害植物に就て. 富山農試農事時報 126 : 1-6
192. 岩山新二(1932)紫雲英菌核病菌の寄主植物に就て. 農及園 7(2) : 257-262
193. 岩山新二(1932)菌核病菌の子嚢胞子分離法のテクニックに就て. 病虫雑 19(5) : 358-361
194. 金子幸司(1962)アメリカの牧草育種と採種. 海外農業生産性視察報告 42 : 1-125
195. 金子幸司・赤城望也・小島昌也・村上 馨(1962)赤クローバ「北海道在来種」の生産性その他若干の特性について. 日草誌 8(1) : 1-7
196. 金子幸司(1964)牧草の耐病性育種. 育種学最近の進歩 5 : 85-94
197. 金子幸司・村上 馨・西村 格・杉信賢一・小島昌也(1967)アカクローバにおける採種条件を異にした場合の諸形質の変化. 日草誌 13(3) : 179-188
198. 香月繁孝(1950) Notes on some new or noteworthy fungi in Kyushu (1). 九州農業研究 7 : 75-76

199. 香月繁孝(1951)Materials for a Cercospora-flora of the Kanto district (1). 日植病報 15 (3-4) : 143-145
200. 香月繁孝(1965)日本産 Cercospora 属菌, 日菌報別冊 1 : 1-100 (英文)
201. 香月繁孝(1966)日本産 Cercospora 属菌補遺. 1. 日菌報 7 (2-3) : 101 - 105 (英文)
202. 河村貞之助(訳)(1967)人畜の健康に及ぼす植物病の副作用について(続). 農薬研究 13 (4) : 68-73.
203. 川鍋祐夫(1957)多年性牧草の夏がれと栽培限界. 畜産の研究 11 (1) : 132-138
204. [川鍋祐夫・柳 武](1961)長野県における牧草生育障害の実態. 第2報. 長野県農地経済部畜産課, 32 p 図版
205. 川鍋祐夫・吉原 潔・岡田忠篤・上野昌彦(1962)牧草の夏がれ防止に関する研究. 第3報. 長短日条件下のラジノクローバの生長比較. 日草誌 8 (2) : 151 (講要)
206. 川鍋祐夫・吉原 潔・岡田忠篤・上野昌彦・日高雅子(1962)牧草の夏がれ防止に関する研究. 2. ほふく茎の大きさおよび節間の長さによる Ladino clover の夏がれ診断について. 日草誌 8 (3) : 211-220
207. 川鍋祐夫・吉原 潔・岡田忠篤(1964)牧草の夏がれ防止に関する研究. 5. 数種牧草に対する灌がいおよび病虫害防除の効果について. 日草誌 10 (1) : 45.(講要)
208. 川鍋祐夫・吉原 潔・岡田忠篤・上野昌彦・日高雅子(1973)牧草の夏がれ防止に関する研究. 灌がい, 病虫害防除剤施用の効果について. 草地試研報 4 : 30-50
209. 木根渕旨光・斉藤武雄(1959)レンゲを侵す Pythium, Sclerotinia に対する PCP の殺菌作用. 北陸病虫研究会報 7 : 92-93
210. 北島 博・梶原敏宏(1967)原色作物病害図説. 増訂版. 429 p. 養賢堂. 東京.
211. 木谷清美(1963)牧草・飼料作物の病害-糸状菌病-西南暖地-マメ科飼料作物. 植物防疫 17 (10) : 407-410
212. 木谷清美・夏目孝男・国安克人(1965)ラジノクローバ白絹病の発病生態-とくに菌の病原力について. 日植病報 30 (2) : 77 (講要)
213. 木谷清美・国安克人・夏目孝男(1968)転換畑におけるラジノクローバ白絹病の防除に関する研究. 四国農試報告 18 : 139-160
214. 木谷清美・国安克人(1970)四国地域における牧草・飼料作物病害の種類および発生状況. 四国農試報告 22 : 119-153.
215. 児玉忠士・森 武・草柳達夫・村山大記(1964)アルファルファモザイクウイルス-一系統の諸性質について. 日植病報 29 (5) : 281 (講要)
216. 小池賢治・奥田誠一・織田真吾(1973)リンドウのてんぐ巢病について-症状と媒

- 介昆虫、北陸病虫研会報 21 : 111 - 115
217. 古井丸良雄・安部幸男(1963)ラジノクローバのシラキヌ病薬剤防除試験、北陸病虫研会報 11 : 54 - 56
 218. 小宮書之助・渡辺直道(1951)富士吉田農場における牧草病害実態調査(I)、明治大学農研報 12 : 43 - 46
 219. 小宮書之助・渡辺直道・鳥倉弘之(1964)牧草主要病害の発生消長について、北日本病虫研会報 15 : 66 - 69
 220. 小宮書之助・工藤 馨・渡辺直道・鳥倉弘文・八重樫隆志(1966)牧草の主要病害の防除法確立に関する研究、牧草の病害防除に関する基礎的研究(I)、明治大科研紀要 5 : 231 - 247
 221. 小室康雄・明日山秀文(1955)キュウリ・モザイク病バイラスに関する研究、II、東京附近における各種植物のモザイク症状株からの分離、日植病報 20 (2-3) : 77 - 82
 222. 小室康雄(1962)Wisconsin に発生しているレッド・クローバのウイルス病の種類、日植病報 27 (2) : 93 (文献紹介)
 223. 小室康雄(1963)牧草・飼料作物の病害ーウイルス病、植物防疫 17 (10) : 417 - 421
 224. 小室康雄(1966)そ菜・花きウイルスの種類に関する研究、日植病報 32 (3) : 114 - 116 (学会賞受賞講要)
 225. 小佐井元吉(1935)満洲におけるルーサン栽培法、満鉄農試報告 36 : 1 - 152
 226. 越水幸男・飯塚典男(1956)ホワイト・クローバの二つのバイラスとその封入体、日植病報 21 (2-3) : 127 (講要)
 227. 越水幸男・飯塚典男(1963)大豆のウイルス病に関する研究、東北農試研報 27 : 1 - 104
 228. 子安喜代司(1965)アカクローバ菌核病防除試験、北農 32 (11) : 12 - 13
 229. 子安喜代司・成田武四(1965)PCNB剤による赤クローバ菌核病の防除、北日本病虫研会報 16 : 111 - 113
 230. 小島昌也・村上 馨・金子幸司・赤城望也(1963)赤クローバ銹病 (*Uromyces fallons Kern*) の罹病評価について、日育・日作北海道談話会報 3 : 34
 231. 久米宏毅・田中貞之・村山大記(1970)アカクローバから分離したインゲン黄斑モザイクウイルス (Bean yellow mosaic virus) の一系統について、北海道大農邦文紀 7 (4) : 435 - 446
 232. 黒沢英一・香月繁孝(1957)日本産痘瘡病菌、Ⅲ、植雑 70 (827) : 131 - 136 (英文)

233. 草野俊助(1929) Observations on *Olpidium Trifolii* Schroet. 東大農
学術報告 10(2): 83-99
234. 草野俊助(1932) The host-parasite relationship in *Olpidium*. 東大農学
術報告 11(4): 359-426
235. 草野俊助(1936) 蚕豆の火腫病(2). 病虫雑 23(2): 92-97
236. 牧野秋雄・森 喜作(1973) シロクロバ白絹病に対するトリコデルマ生菌剤の効
果. 関東病虫研会報 20: 77
237. 真野 豊(1975) 昭和49年の発生にかんがみ注意すべき病害虫. 北農 42(3): 12-21
238. 松井幸夫・菊地政則・三浦公嘉・佐藤幸典・加藤 浩(1969) *Fusarium* spp.
によるルーサン萎凋病について. 日植病報 35(2): 106 (講要)
239. 松井幸夫・菊地政則・渡辺英男・麓 正樹(1977) 北海道におけるアルファルファ
の根腐病菌と発生状況について. 日植病報 43(3): 338-339 (講要)
240. [満洲] 国立公主嶺農事試験場(1939) 満洲病害虫防除便覧. 440 p
241. 松本直幸・荒木隆男(1978) アルファルファ・フィトフトラ根腐病菌の土壌中から
の検出. 日植病報 44(1): 75 (講要)
242. 松本直幸・荒木隆男(1978) アルファルファのフィトフトラ根腐病とその病原菌
Phytophthora megasperma Drechsler について. 日植病報 44(2): 214
-217 (英文)
243. 松本直幸・佐藤 徹(1979) アルファルファ圃場の土壌より分離された *Phytop-*
hthora cryptogea Pethyb. & Laff. について. 日植病報 45(4): 528-
529 (講要)
244. 松本省平(1962) 近紫外線照射の種々の菌の孢子形成に及ぼす影響. 日植病報 32
(5): 244 (文献紹介)
245. 松本 勤・児玉忠士・村山大記(1968) On the alfalfa mosaic virus
strain occurring on forage crops in Hokkaido, 北海道大農紀
56(1): 1-16
246. 松尾卓見・金井勘治・桜井善雄(1956) *Fusarium oxysporum* (Schl.)
Snyder et Hansen の生理的分化に関する研究Ⅱ. 日植病報 21(2-3):
118 (講要)
247. 松尾卓見(1969) フザリウム菌の見分け方. 植物防疫 23(11): 473-480.
248. 松浦 勇(1925) シロツメクサ及アカツメクサの汚斑病につきて. 病虫雑 12(12):
668-673
249. 松浦 勇(1930) シロツメクサ及びアカツメクサの二新病害に就きて. 病虫雑 17

- (9) : 585—589.
250. 松浦 義(1943)紫雲英菌核病菌の寄主体侵入に就て. 盛岡高農同窓会学 16: 103—109
 251. 松浦 義(1946)紫雲英菌核病ニ関スル研究(第1報). 山形農試指定試験報告 1: 1—156
 252. 松浦 義(1948)紫雲英の菌核病に就いて. 東北農業 2(2): 46—50
 253. 松浦 義(1948)種子中に混在せる紫雲英菌核病菌核の温湯処理に依る撲滅に就いて. 日植病報 13(1—2): 58(講要)
 254. 松浦 義・堀野正雄(1951)紫雲英萎縮病について(予報). 東北農業 4(5—6): 235—237
 255. 松浦 義・鈴木幸雄(1951)紫雲英菌核病発病環境としての微細気象. 北日本病虫研会報 2: 37—38
 256. 松浦 義・堀野正雄(1951)紫雲英萎縮病について(第2報). 北日本病虫研会報 2: 38—39
 257. 松浦 義(1953)紫雲英の萎縮病に就いて. 日植病報 17(2): 65—68
 258. 松浦 義(1953)紫雲英の塩素酸加里に対する抗毒性と菌核病罹病性との関係. 日植病報 17(2): 80
 259. 松浦 義(1954)紫雲英の秋期刈取が菌核病の発生に及ぼす影響に就いて. 日植病報 18(3—4): 125—127
 260. 松浦 義(1954)紫雲英菌核病の発生と発病期に於ける紫雲英叢生中の微細気象に就いて. 日植病報 19(1—2): 6—10
 261. 松浦 義(1954)紫雲英の秋期草冠の一部刈取が菌核病の発生に及ぼす影響について. 日植病報 19(1—2): 70(講要)
 262. 三浦密成(1928)満洲菌類誌(満蒙植物誌III. 隠花植物, 菌類). 満鉄興農部農務課産業部資料 27: 1—549
 263. 三浦密成(1957)秋田農試保管病菌標本調査報告. 秋田農試報告 8: 1—64
 264. 三浦密成(1962)秋田農試保管病菌標本調査報告, 補遺. 秋田農試報告 13: 1—17
 265. 宮本 進・檀原 宏(1969)有機水銀農薬の乳汁への移行. 日畜学会, 昭44年度講演要旨: 52
 266. 宮本 進(1974)酢酸フェニール水銀中の水銀の家畜体内における代謝と乳汁への移行. 栄養と食糧 27(2): 47—53
 267. 水野晶己・甲元啓介・西村正暘・西原夏樹(1973) Rhizoctonia 病害に関する病理化学的研究. 第V報. Phenylpropanoid 代謝からみた R. solani と R.

- leguminicola の差異. 日植病報 39(2): 161 (講要)
268. 諸橋〔公穂〕(1966) 相次で麦角等混入の種子輸入. 横浜植物防疫ニュース 305 : 4
269. 向 秀夫・西原夏樹(1975)飼料作物, 牧草の病害, 河田党編, 作物病虫害事典, 養賢堂. 東京 pp. 306 - 372
270. 村上 馨・金子幸司・赤城望也・小島昌也(1970)アカクローバ新品種「サッポロ」の育成. 北海道農試彙報 97 : 73 - 80
271. 村里正八・高橋広治・佐々木泰斗・飯田 格・太田 顕(1964)ラジノクローバの生育におよぼす黒点病の影響について. 日草誌 10(1): 54 (講要)
272. 村里正八・小島昌也・菅原 毅(1969)シロクローバ病害の季節的発生消長について. 日草誌 15(1): 86 (講要)
273. 村山大記(1941)荳科植物モザイク病の種子伝染について. 日植病報 10(4): 332 - 334 (講要)
274. 村山大記(1941)荳科植物のモザイク病の種子伝染に関する研究. 札幌農林会報 34(1): 40 - 74 図版
275. 村山大記(1948)アカツメクサ及シロツメクサの銹菌に就いて. 日植病報 13(1 - 2): 47 - 52
276. 村山大記・児玉忠士・松本 勤(1965)アルファルファモザイクウイルスの系統に関する研究. 第 1 報. 諸系統の病徴ならびに血清学的性質について. 日植病報 30(2): 89 (講要)
277. 村山大記・四方英四郎・塩田弘行・関山英吉・桜井 博・和賀三郎・谷津 繁・島本幸典(1966)馬鈴薯紫染萎黄病に関する研究(第 1 報). 北海道大農邦文紀 6(2): 231 - 273 図版
278. 村山大記・松本 勤・児玉忠士(1966)アルファルファモザイクの系統について. ウイルス 16(3): 104 (講要)
279. 村山大記・久米宏毅・田中貞之(1968)北海道の赤クローバから分離したインゲン黄斑モザイクウイルスの 1 系統について. 日植病報 34(5): 367 - 368 (講要)
280. 室賀利正(1964)輪換畑牧草地の管理. 日草誌 10(2): 153 - 157
281. 室賀利正(1964)暖地の水田輪換畑における牧草栽培. 農及園 39(9): 1363 - 1368
282. 室賀利正・斉藤幸雄(1964)牧草の夏枯れ防止に関する研究. 第 1 報. 灌漑, 病虫害防除が数種牧草の生育, 収量に及ぼす影響について. 日草誌 9(2): 123 (講要)
283. 永井政次・島村光太郎(1933)千島国後島採集菌類に就て. 札幌農林会報 25(114): 71 - 89.

284. 長井雄治・宮下真一・明日山秀文(1961)牧草葉腐病菌の培養的性質と病原性. 日植病報 26(5): 218 (講要)
永田利美・小畑琢志・広川 敢(1963)輸入種子類に混在する菌核のくん蒸殺菌試験. 植物防疫所調査研究報告 2: 41-50
286. 内藤中人(1956)香川県に発生する病害3種に就いて. 四国農業研究 1: 60-62.
287. 中広義雄・一色 泰(1961)ラジノクローバの夏季灌水が青刈収量および一般組成におよぼす影響. 農及園 36(4): 711-712
288. 中村重正・山本三夫・斉藤紀子・新海 昭(1975)ラジノクローバの葉化症状について. 日植病報 41(3): 297-298 (講要)
289. 中村重正・山本三夫・斉藤紀子・新海 昭(1975)ラジノクローバの花の葉化とその電子顕微鏡による所見. 農学集報 20(2): 143-152
290. 中村重正・斉藤紀子・郷原 茂(1976)ラジノクローバの花の葉化と温度の関係. 日植病報 42(1): 107 (講要)
291. 中村重正・斉藤紀子・郷原 茂・山本忠生(1976)クローバの花の葉化病(仮称)の発生状況. 日植病報 42(3): 389 (講要)
292. 中村重正・斉藤紀子・山本三夫(1978)クローバの花の葉化病に関する研究(第2報). 病徴の発現に及ぼす温度の影響. 農学集報 23(2): 97
293. 中野富雄(1966)牛のよだれと赤クローバ. 牧草と園芸 14(7): 14.
294. 中嶋紘一・但見明俊・渡辺亀彦・西原夏樹(1968)アルファルファにおける炭そ病抵抗性の早期検定法に関する研究. I. 60日前後の苗における検定. 日草誌 14(別号): 43-44 (講要)
295. 中嶋紘一・渡辺亀彦・但見明俊・西原夏樹(1969)アルファルファにおける炭そ病抵抗性の早期検定法に関する研究. 2. 苗令と抵抗性との関係について. 日草誌 15(1): 86 (講要)
296. 中嶋紘一・渡辺亀彦・但見明俊・西原夏樹(1970)アルファルファにおける炭そ病抵抗性の早期検定法に関する研究. 3. 幼苗検定による選抜効果. 日草誌 16(1): 63 (講要)
297. 中嶋紘一・渡辺亀彦(1970)アルファルファ品種の株刈れと刈取回数, 炭そ病との関係. 1. 刈取処理と株枯れ. 日草誌 16(3): 222 (講要)
298. 中嶋紘一・渡辺亀彦(1974)アルファルファ炭そ病抵抗性の遺伝. 1). 自殖後代の分離. 日草誌 20(別号2): 34-35
299. 中島 茂・平田正一・清水 薫・河野明綱(1958)飼料作物に対する病虫防除の研究. 宮崎大農研究時報 4(1): 84-95

300. 中田栄一郎・松本邦彦・杉山正樹(1974)山口県における牧草病害の発生実態. 日植病報 **40** (2) : 135 (講要)
中田栄一郎・杉山正樹・松本邦彦(1979)山口県における牧草, 飼料作物病害の発生実態調査. 山口農試研報 **31** : 129-136
302. 中田覚五郎・明日山秀文(1939)満洲国主要農作物病害調査報告. 満洲国産業部資料 **32** : 1-166
303. 中田覚五郎(1957)最新改訂作物病害図編. 664 p. 養賢堂. 東京
304. 成田武四(1940)赤クローバ炭疽病とその防除法. 北農 **7** (8) : 275-277
305. 成田武四(1953)飼料作物の病害. 農業北海道 **5** (7) : 30-31
306. 成田武四(1958)荳科及び禾本科牧草の病害短報(I). 北海道立農試集報 **2** : 45-61
307. 成田武四(1959)荳科及び禾本科牧草の病害短報(II). 北海道立農試集報 **4** : 54-70
308. 成田武四(1961)北海道における牧草・飼料作物の主要病害と問題点(1). 農業技術 **16** (10) : 467-469
309. 成田武四(1961)北海道における牧草・飼料作物の主要病害と問題点(2). 農業技術 **16** (11) : 520-523
310. 成田武四(1961)北海道における牧草・飼料作物の主要病害と問題点(3). 農業技術 **16** (12) : 572
311. 成田武四(1962)主要牧草の病害と問題点. 農薬の進歩 **8** (3) : 7-20
312. 成田武四(1963)牧草・飼料作物の病害—糸状菌病—寒冷地(とくに北海道), 植物防疫 **17** (10) : 397-402.
313. 成田武四(1963)マメ科及びビネ科牧草の病害短報(IV). 北海道立農試集報 **10** : 89-102
314. 成田武四(1964)赤クローバの一生と病害. 牧草と園芸 **12** (4) : 1-4
315. 成田武四(1964)赤クローバ黒葉枯病. 農薬の進歩 **10** (2) : 口絵
316. 成田武四・佐久間 勉・舟山広治・子安喜久司(1964)牧草・飼料作物の病害に関する研究. 北海道立農試資料 **4** : 94-96.
317. 成田武四・五十嵐文男・子安喜代司(1965)アルサイクローバのさび病について. 北日本病虫研究会報 **16** : 42-43
318. 成田武四(1966) *Sclerotinia sclerotiorum* (Lib.) de Baryによる豆類, その他の作物の菌核病に関する研究総説. 北海道十勝農試資料 **2** : 1-42
319. 成田武四・土屋貞夫・佐久間 勉・佐藤倫造・酒井隆太郎(1968)アカクローバ黒葉枯病菌の形態と生活史. 日植病報 **34** (5) : 363. (講要)
320. 成田武四(1972)アカクローバおよびラジノクローバの褐斑病について. 北日本病虫研究会報 **23** : 19-24

321. 成田武四(1973)北海道に分布する未記録の牧草病害. 北日本病虫研究会報 24 : 65
322. 成田武四・山田育夫(1976)アルファルファ炭そ病菌の培養性質および寄生性について. 北日本病虫研究会報 27 : 67
323. 成田武四(1977)北海道における農作物病害. 277 p. 著者出版. 帯広
324. 根本正康(1970)クリムソクローバのモザイク病. 日植病報 36(3): 186 (講要)
325. 新留伊俊・糸賀繁人(1960)春季におけるレンゲ菌核病菌子のう盤の発生について. 日植病報 25(1): 65 (講要)
326. 新留伊俊・糸賀繁人(1960)春季におけるレンゲ菌核病菌子のう盤の発生について. 九州農業研究 22 : 100-102
327. 新留伊俊(1964)牧草の夏枯れとその対策に関する研究. 第1報. ラジノクローバの夏枯れの実態とその原因. 九州病虫研究会報 10 : 116-117
328. 新留伊俊(1965)牧草の夏枯れに関する研究. 第2報. ラジノクローバ白絹病の被害の実態とその防除法. 日植病報 30(5): 273 (講要)
329. 新留伊俊(1966)牧草の夏枯れとその対策に関する研究. 第2報. ラジノクローバ白絹病の被害の実態とその防除法. 九州農業研究 28 : 102-103
330. 新留伊俊(1967)ルーサン菌核病の防除法. 日草誌 13(4): 264
331. 新留伊俊(1969)Trichoderma 菌施用によるラジノクローバ白絹病の防除効果. 九州病虫研究会報 15 : 20-22
332. 新留伊俊(1970)牧草の病害虫とその対策. 鹿児島農試創立70年記念報告 : 238-242
333. 新留伊俊(1971)牧草の夏枯れとその対策に関する研究. 4. 夏枯れしたラジノクローバから分離される病原菌. 九州病虫研究会報 17 : 41-42
334. 日本植物病理学会(1965)日本有用植物病名目録. II. 329 p. 日本植物病理学会. 東京
335. 西田 耕(1964)タバコ炭疽病菌の分類学的研究. 盛岡たばこ試報告 2 : 1-63
図版
336. 西田藤次(1910)紫雲英の菌核病に就て. 大日本農会報 344 : 17-23
337. 西原夏樹(1958)ダイズやアブキの炭腐(すみぐされ)病. 千葉農試研報 3 : 89-124
338. 西原夏樹(1958)牧草の病害. 今月の農業 2 (12) : 32-41
339. 西原夏樹(1959)千葉県に発生する clover の病害について. 日植病報 24(1): 40 (講要)
340. 西原夏樹(1959)千葉県に発生するアルファルファの病害. 日植病報 24(1): 45

(講要)

- 341. 西原夏樹(1959)牧草病害の問題点. 農薬(日本農薬社) 6(1): 57-61
- 342. 西原夏樹(1960)マメ科牧草から分離した数種の *Stemphylium* 属菌の寄主範囲について. 日植病報 25(1): 13 (講要)
- 343. 西原夏樹(1960)バーズフット・トレフォイル輪紋病(仮称). 日植病報 25(1): 49 (講要)
- 344. 西原夏樹(1960)マメ科牧草の炭腐病(charcoal rot). 日植病報 25(1): 49-50 (講要)
- 345. 西原夏樹(1960)レンゲ斑点病菌(*Stemphylium astragali* Yoshii)の完全時代について. 日植病報 25(1): 50 (講要)
- 346. 西原夏樹(1960)レッドクローバ葉枯病(仮称). 日植病報 25(5): 218 (講要)
- 347. 西原夏樹(1960)クリムソンクローバー炭疽病. 日植病報 25(5): 218 (講要)
- 348. 西原夏樹(1960)クローバーの病気, その見分け方. デーリイマン 10(5): 28-29
- 349. 西原夏樹(1960)クローバーの病気, 続その見分け方. デーリイマン 10(10): 24-25
- 350. 西原夏樹(1960)クローバーの病気とその見分け方. 農業技術 15(10): 446-450.
- 351. 西原夏樹(1961)牧草の病害. I. クローバーとアルファルファ. 千葉農試資料 1: 1-124
- 352. 西原夏樹(1961)アルファルファの病気, その見分け方. デーリイマン 11(6): 28-29
- 353. 西原夏樹(1962)マメ科牧草の病害(カラー写真および解説). 農薬(日本農薬社) 9(5): 口絵
- 354. 西原夏樹(1963)牧草の病害, III. 千葉農試資料 3: 1-104
- 355. 西原夏樹(1963)牧草・飼料作物病害の展望. 植物防疫 17(10): 389-396
- 356. 西原夏樹(1963)牧草の夏の病気. デーリイマン 13(9): 14
- 357. 西原夏樹(1964)アルファルファの病気の診断と防除. 農及園 39(9): 1407-1410
- 358. 西原夏樹・但見明俊(1964)アルファルファ炭そ病とその病原菌について. 日植病報 29(5): 291 (講要)
- 359. 西原夏樹(1965)ブラジルにおける牧草病害について. 日植病報 30(5): 269.(講要)
- 360. 西原夏樹(1965)病害研究の展望と問題点-牧草病害. 日植病報 31(記念号): 119-121
- 361. 西原夏樹(1965)牧草の病害. 農林水産技術会議事務局. 研究成果 24(粗飼料の生産技術): 65-75

362. 西原夏樹(1965)春に起こりやすい牧草の病害, 畜産コンサルタント 1(4): 42-43
363. 西原夏樹(1965)黒かび病の新しい発生地と被害植物, 日草誌 11(3): 186-187
364. 西原夏樹(1966)ブラジル・リオグランデドスール州の牧草病害について, II. マメ科牧草, 農林省畜試研報 10: 33-41
365. 西原夏樹(1966) 各種の *Trifolium* 属植物から得られた *Curvularia trifolii* の形態と寄生性の比較, 農林省畜試研報 12: 15-23
366. 西原夏樹(1968)飼料作物の病害, 農業世界 63(1): 188-189
367. 西原夏樹(1968) *Choanephora cucurbitarum* によるラジノクローバのこうがい毛かび病, 日菌報 9(1): 38-42
368. 西原夏樹(1968)わが国におけるアルファルファ黄斑病の発生について, 日植病報 34(5): 342-343
369. 西原夏樹(1969) *Stemphylium botryosum* によるスイートクローバの葉枯病, 日植病報 35(3): 234-238
370. 西原夏樹(1969)飼料作物の病害防除法, 農および園 44(1): 282-286
371. 西原夏樹(1969)牧草病害の病原学的研究, 日草誌 15(1): 71-72(日本草地学会賞受賞講要)
372. 西原夏樹(1970)マメ科牧草の白絹病, 今月の農薬 14(4): 76-78
373. 西原夏樹・吉村彰治(1970)飼料作物の病虫害の診断と防ぎ方, I. 牧草の病害, 産業資材PRセンター, 東京, (カラースライド 102 コマ, テキスト 43 p.)
374. 西原夏樹(1975) *Stagonospora meliloti* によるホワイトスイートクローバの白斑病, 草地試研報 6: 95-99
375. 西原夏樹(1976)牧草採種栽培における病害の発生状況(1975年), 日草誌 22(別号1): 107-108.(講要)
376. 西原夏樹(1976) Diseases of the grass and soiling forage crops and their control, Agric. Asia, Special Issue No.10 (Plant protection in Japan, 1976): 246-249
377. 西原夏樹(1976)病害とその防除, 草地自給飼料百年史, 中央畜産会, 東京, pp. 1200-1219
378. 西原夏樹(1977)牧草採種栽培における病害の発生状況(1976年), 日草誌 23(別号): 219-220
379. 西原夏樹(1978)本邦温暖地における牧草類糸状菌病の病原学的研究, 日植病報 44(3): 231-234 (学会賞受賞講要)
380. 西原夏樹(1979)牧草採種栽培における病害の発生状況(1977-1978年), 日草誌

25 (別号) : 203 - 204

- 381. 西原夏樹(1979)飼料作物の病害について. 農薬グラフ 69 : 4-7
- 382. 西門義一・中山隆夫・日浦連治(1947)甘藷の腐敗防止に関する研究(第1報).
貯蔵甘藷を侵害する病害の種類に就いて(其1). 農学綜報 2 : 1-34
- 383. 西村正暘・佐々木睦男(1963) *Pellicularia filamentosa* の代謝毒素の分離.
日植病報 28(4) : 228-234
- 384. 農林省農務局(1932)紫雲英の菌核病と其の防除. 農事改良資料 46 : 23
- 385. 農林省(1935)紫雲英の菌核除去について. 農産彙報 23 : 55-58
- 386. 農林省農林水産技術会議事務局編(1963)飼料作物の種, 品種ならびに系統の解説.
第2部. 品種解説 2 : 1-252
- 387. 農林省農林水産技術会議事務局編(1974)飼料作物の品種解説. 198p. 日本飼料作物種子協会. 浦和市
- 388. 小幡稔実(1962)高冷地寒冷地における飼料用草地の管理方法(2). 農及園 37(6) :
978-980
- 389. 小畑琢志・永田利美・広川 敢(1960)輸入種子類に混在する菌核殺菌試験(第2報). 日植病報 25(5) : 242 (講要)
- 390. 尾形 保・田野良衛(1964)牧草の夏がれ現象に及ぼす土壌並びに植物栄養条件に関する研究. 第3報. ラジノクローバ根の土壌中での分解に及ぼす土壌の種類と地温の影響(その1). 日草誌 10(1) : 56 (講要)
- 391. 尾形 保(1965)牧草の生育におよぼす地温と土壌の関係ーラジノクローバの夏がれを中心として. 加里研究 10 : 1-15
- 392. 尾形 保(1965)ラジノクローバの夏枯れに及ぼす土壌の種類と地温の影響. 土と微生物 7 : 16-22
- 393. 尾形 保・上貝義運・三須 昇・田野良衛(1966)牧草の夏枯れ現象に及ぼす土壌並びに植物栄養条件に関する研究. 第6報. ラジノクローバの夏枯れに対する地温低下処理と土壌殺菌殺虫処理の比較. 第11回日本草地学会大会講要 : 21
- 394. 小川 隆(1939)禾本及びブルーサンに寄生する諸種 *Pythium* と種々の微生物との拮抗. 日植病報 8(4) : 347 (文献紹介)
- 395. 小河原 進・松浦 義(1939)菜種菌核病ニ関スル研究. 福井農試試験調査報告 23 : 1-191
- 396. 岡部徳夫(1949)植物細菌病学. 424 p. 朝倉書店. 東京
- 397. 岡部徳夫・後藤正夫(1955)日本に於ける植物細菌病. I. 細菌病およびその病菌の種類について. 静岡大農研究報告 5 : 63-71

398. 岡部徳夫・後藤正夫(1955)日本に於ける植物細菌病, III. *Pseudomonas* 属細菌による腐敗病について. 静岡大農研究報告 5 : 87-95
399. 岡部徳夫・後藤正夫(1956) *Pseudomonas* sp. によるヒマワリ, ジャガイモ, キャベツ, クローバ及びダリアの病害について. 日植病報 20(4) : 173 (講要)
400. 奥田誠一(1977)植物の萎黄叢生病の病原に関する研究. 宇都宮大農学術報告特輯 32 : 1-70
401. 大木 理・土居養二・与良 清(1975)レンゲ萎縮ウイルス粒子の形状について. 日植病報 41(1) : 87 (講要)
402. 大木 理・土居養二・与良 清(1976)クローバー類より見出されたBYV群ウイルスについて. 日植病報 42(1) : 63-64 (講要)
403. 大木 理・土居養二・与良 清(1976)クローバー萎黄ウイルス. 日植病報 42(3) : 313-316 (英文)
404. 大島信行・根本正康・佐藤倫造(1962)ラジノクローバのモザイク病. 北日本病虫研会報 13 : 77-78
405. 太田 庸・飯田 格(1966)刈取高さおよび刈取時期と牧草病害発生との関係について. 北日本病虫研会報 17 : 59
406. 雑賀 優(1972)わが国における牧草育種. 育種 22(4) : 253-254
407. 斉藤 正(1954)飼料作物の病害に関する研究. レッドクローバーの病害について. 植物防疫 8(11) : 476-479
408. 斉藤 正(1955)コンモンベッチの炭疽病について. 日植病報 20(1) : 44 (講要)
409. 斉藤 正(1956)レッドクローバーの病害とその病斑の特徴. 北陸病虫研会報 4 : 52-53
410. 斉藤 正(1956)ヘアリーベッチ及びアルファルファの病害. 北陸病虫研会報 4 : 53-54
411. 斉藤 正(1956)レンゲの銹病に就て. 日植病報 21(2-3) : 122. (講要)
412. 斉藤 正・小野小三郎(1957)荳科飼料作物の病害と防除. 畜産の研究 11(1) : 182-186
413. 斉藤 正(1958) *Botrytis*属菌によるヘアリーベッチの病害について. 日植病報 23(1) : 16 (講要)
414. 斉藤 正(1960)北陸地帯におけるレンゲ病害の発生について. 日草誌 6(1) : 65-66
415. 斉藤 正(1960)北陸地方に発生するレンゲ病害について(予報). 北陸病虫研会報 8 : 89-90

416. 斉藤 正(1960)牧草病害の種類と発生の概要—とくに北陸地方の主要病害について, 農業技術 15 (5) : 204—208
417. 斉藤 正(1961)輪換畑におけるクローバーの「夏がれ」と病害との関係, 日植病報 26 (5) : 240 (講要)
418. 斉藤 正(1962)レンゲ褐斑病菌に関する研究. I. 菌の形態, 培養温度および病原性について, 日植病報 27 (2) : 64 (講要)
419. 斉藤 正(1962)病害に対するクローバー類の罹病性の差異について, 日草誌 8 (2) : 153—154 (講要)
420. 斉藤 正・吉村彰治(1962)北陸地方におけるクローバ類の病害について, I. 発生病害の種類, 程度及び季節の消長, 北陸病虫研会報 10 : 51—54
421. 斉藤 正(1963)レッドクローバーの花腐病(新称)について, 日植病報 28 (2) : 70 (講要)
422. 斉藤 正(1963)レンゲ病害に関する研究—北陸地方における発生病害の種類並びに季節の消長, 北陸農試報告 5 : 1—26 図版
423. 斉藤 正・吉村彰治(1963)北陸地方におけるクローバー類の病害について, II. 転換畑の病害, 北陸病虫研会報 11 : 47—49
424. 斉藤 正・吉村彰治(1964) Botrytis 属菌によるクローバーおよびベッチ類の新病害, レッドクローバー花腐病およびヘアリーベッチ灰色かび病, 北陸農試報告 7 : 129—144 図版
425. 斉藤 正・倉田宗良・山本 磐(1970)ピーマン白斑病に関する研究, 高知農林研報 3 : 1—8
426. 坂井 弘・河本次郎(1966)瀬戸内花崗岩質土壌におけるルーサン(アルファルファ)作付に関する土壤肥料学的研究(予報), 中国農試報告 A, 12 : 95—112
427. 酒井隆太郎・佐藤倫造(1966)アカクローバー黒葉枯病の抵抗性に関する研究, 第1報, 病原菌(Phyllosticta sp.)の生産する毒性物質について, 日植病報 32 (5) : 311 (講要)
428. 酒井隆太郎・佐藤倫造・仁木 弘・坂村貞雄(1967)アカクローバ黒葉枯病の抵抗性に関する研究(第2報), 病原菌(Phyllosticta sp.)代謝毒素の生産条件とその特性について, 日植病報 33 (2) : 84 (講要)
429. 酒井隆太郎・佐藤倫造・坂村貞雄・仁木 弘(1967) Phyllosticta sp. 菌の生産する生理的活性物質 phyllosinolの抗菌性, 日植病報 33 (5) : 350 (講要)
430. 酒井隆太郎・佐藤倫造・坂村貞雄・仁木 弘(1968) Phyllosticta sp. 菌の生産する生物活性物質 phyllosinolの生理学的性質, 日植病報 34 (3) : 180 (講要)

431. 酒井隆太郎・島貫忠孝・佐久間 勉(1968)アカクローバ茎割病抵抗性に関する研究(3). 寄主植物表皮上の病原菌胞子発芽について. 日植病報 34(5): 364(講要)
432. 酒井隆太郎・坂村貞雄・佐藤倫造・伊藤滋朗(1969) *Phyllosticta* sp. 菌の生産する新生理活性物質 "Phyllostine" の抗菌性作用について. 日植病報 35(5): 385(講要)
433. 酒井隆太郎・佐藤倫造・坂村貞雄(1970) *Phyllosticta* sp. 菌の代謝毒素 *Phyllostine* の生物活性について. 日植病報 36(3): 153-154(講要)
434. 酒井隆太郎・坂村貞雄(1970)フィロシノールを原点として一植物病理化学の側面. 化学と生物 8(3): 189-191
435. 佐 間 勉・酒井隆太郎(1966)アカクローバ茎割病に関する研究. 第1報. 病原菌 (*Kabatella caulivora* (Kirch.) Karak.) 胞子の発芽条件について. 日植病報 32(5): 311(講要)
436. 佐久間 勉・島貫忠孝・佐藤倫造・酒井隆太郎(1967)北海道のマメ科牧草に新に発生した炭腐病について. 日植病報 33(5): 349(講要)
437. 佐久間 勉・酒井隆太郎(1968)アカクローバ茎割病に関する研究. 第II報. 胞子発芽促進物質の単離(1). 日植病報 34(3): 180(講要)
438. 佐久間 勉・島貫忠孝・酒井隆太郎(1968)アカクローバ茎割病抵抗性に関する研究(4). 抵抗性系統選抜法(その一). 日植病報 34(5): 364(講要)
439. 佐久間 勉(1968)北海道における牧草病害について. 北海道草地研究会報 2: 44-56
440. 佐久間 勉・酒井隆太郎(1969)アカクローバ茎割病抵抗性に関する研究. 第V報. 分生胞子発芽促進物質の単離(その2). 日植病報 35(2): 106(講要)
441. 佐久間 勉・島貫忠孝・杉信賢一(1969)人工交配によるアカクローバ茎割病抵抗性個体の後代(F_1)検定. 日植病報 35(5): 374-375(講要)
442. 佐久間 勉・島貫忠孝(1969)アカクローバ茎割病菌の寄主への侵入過程. 日植病報 35(5): 375(講要)
443. 佐久間 勉・島貫忠孝(1969)アカクローバ茎割病の耐病性系統および品種の選抜法の吟味. 北農 36(11): 43-46
444. 佐久間 勉・酒井隆太郎(1970)アカクローバ茎割病に関する研究. 第1報. 分生胞子の発芽条件. 北海道農試彙報 96: 96-100
445. 佐久間 勉・島貫忠孝・酒井隆太郎(1970)アカクローバ茎割病に関する研究. 第2報. 抵抗性系統および個体の選抜について. 日草誌 16(1): 7-11
446. 佐久間 勉・島貫忠孝(1971)アカクローバ茎割病に関する研究. 第3報. 抵抗性

を異にする寄主組織への病原菌の侵入過程, 日植病報 36(4): 250-253

447. 佐久間 勉・島貫忠幸・杉信賢(1973)人工交配によるアカクロバ茎割病感受性程度の F_1 世代における検定, 日草誌 19(2): 242-244
448. 佐久間 勉(1973)アカクロバの産生するマキアインおよびメディカルビンと茎割病抵抗性との関係, 日植病報 39(2): 149 (講要)
449. 佐久間 勉(1973)アカクロバ茎割病抵抗性病斑および隣接組織部位におけるフェノール類の役割, 日植病報 39(3): 212 (講要)
450. 佐久間 勉(1974)アカクロバ茎割病に関する研究, 187 p. 北海道大学博士論文.
451. 佐久間 勉(1975)アカクロバ茎割病抵抗性に関する研究, 北海道農試研報 111: 143-213
452. 佐久間 勉・荒木隆男(1975)北海道に発生するマメ科牧草菌核病の発生消長と病原菌について, 日植病報 41(1): 125 (講要)
453. 佐久間 勉・荒木隆男・成田武四(1975)北海道に大発生したアルファルファ炭疽病について, 日植病報 41(1): 125 (講要)
454. 佐久間 勉(1975)草地学最近10年間における研究の進歩-病害, 日草誌 20(特別号): 28
455. 佐々木睦男・西村正暘(1962)クロバ類葉腐病耐病性の遺伝(予報), 葉腐病耐病性の判定法, 育雑 12(3): 199 (講要)
456. 佐藤英一・村山正八・石井孝夫・中山貞夫・但見明俊(1971)シロクロバ汚斑病の幼苗接種方法について, 日草誌 17(別号): 21
457. 佐藤倫造・酒井隆太郎(1966)アカクロバ茎割病抵抗性の検定法に関する研究(1), 接種条件について, 日植病報 32(5): 310-311 (講要)
458. 佐藤倫造・酒井隆太郎(1967)赤クロバ茎割病の抵抗性検定法について, 接種条件について, 北日本病虫研会報 18: 64
459. 佐藤倫造・佐久間 勉・酒井隆太郎・土屋貞夫・成田武四(1968)培養基上におけるアカクロバ黒葉枯病菌の発育, 日植病報 34(5): 363-364 (講要)
460. 佐藤倫造・酒井隆太郎(1970)アカクロバ黒葉枯病菌の培養基上における発育と子のう盤形成について, 北海道農試彙報 97: 99-107
461. 佐藤倫造・荒木隆男(1974)マメ科牧草萎ちょう病病原菌 *Fusarium oxysporum* の分化型について, 日植病報 40(2): 116-117 (講要)
462. 佐藤倫造・荒木隆男(1975)マメ科牧草根ぐされ病を起因する *Fusarium solani* の分化型について, 日植病報 41(1): 125 (講要)
463. 佐藤倫造・荒木隆男(1975) *Fusarium roseum* によるマメ科牧草の Crown

- rot について. 日植病報 41 (3) : 266 (講要)
464. 佐藤倫造・荒木隆男(1976)マメ科牧草の冠部腐敗症状を起こす *Fusarium roseum* の病原性について. 日植病報 42 (1) : 97 (講要)
 465. 佐藤倫造・荒木隆男(1978) *Fusarium oxysporum* f. sp. *medicaginis* の生存. 日植病報 44 (1) : 72-73 (講要)
 466. 沢田兼吉(1914)分生孢子時代より観たる粉病菌科. 台湾農試特別報告 9 : 1-102
 467. 沢田兼吉(1919)台湾産菌類調査報告 1. 台湾農試特別報告 19 : 1-695 図版〔台菌調 1〕
 468. 沢田兼吉(1922)台湾産菌類調査報告 2. 台湾中央研究所農業部報告 2 : 1-173 図版〔台菌調 3〕
 469. 沢田兼吉(1927)台湾産菌類調査報告 3. 台湾中央研究所農業部報告 27 : 1-62 図版〔台菌調 3〕
 470. 沢田兼吉(1928)台湾産菌類調査報告 4. 台湾中央研究所農業部報告 35 : 1-123 図版〔台菌調 4〕
 471. 沢田兼吉(1933)台湾産菌類調査報告 6. 台湾中央研究所農業部報告 61 : 1-99 図版〔台菌調 6〕
 472. 沢田兼吉(1942)台湾産菌類調査報告 7. 台湾農試報告 83 : 1-170 図版〔台菌調 7〕
 473. 沢田兼吉(1943)台湾産菌類調査報告 8. 台湾農試報告 85 : 1-130 図版〔台菌調 8〕
 474. 沢田兼吉(1943)台湾産菌類調査報告 9. 台湾農試報告 86 : 1-178 図版〔台菌調 9〕
 475. 沢田兼吉(1944)台湾産菌類調査報告 10. 台湾農試報告 87 : 1-96 図版〔台菌調 10〕
 476. 沢田兼吉(1951)東北地方菌類調査報告(I). 粉病菌科. 林試研報 50 : 97-140
 477. 沢田兼吉(1952)東北地方菌類調査報告(II). 子囊菌類及び原菌類. 林試研報 53 : 135
 478. 沢田兼吉(1952)東北地方菌類調査報告(III). 銹菌類. 林試研報 57 : 1-85
 479. 沢田兼吉(1958)東北地方菌類調査報告(IV). 不完全菌類. 林試研報 105 : 35-140
 480. 沢田兼吉(1959)Descriptive catalogue of Taiwan (Formosa) fungi XI. Colle. Agric. Nat. Taiwan Univ. Special Pub. 8 : 1-268 pl.〔台菌調 11〕
 481. 関沢 博・橋本 保(1964)牧草の病害に関する研究. その 2. 層別刈取りによる

主要病害の発生部位と発生消長. 北日本病虫研究会報 15 : 65 - 66

482. 重永知明・古山 寛(1963)熊本県における飼料作物病害発生状況調査. 九州病虫研究会報 9 : 8-10
483. 関山英吉・村山大記(1970)北海道後志地方に発生するジャガイモ紫染萎黄病. 農および園 45 (5) : 843 - 844
484. 島袋俊一(1960)琉球列島の栽培植物に寄生する銹菌類. 琉球大農家政工学術報告 7 : 315 - 327
485. 島田昌一(1939)紫雲英菌核病の防除に就て. 日植病報 9 (3) : 179 - 180
486. 島貫忠幸・佐久間 勉(1970)アカクローバ茎割病菌の菌系について. 日植病報 36 (5) : 362 (講要)
487. 島貫忠幸・荒木隆男(1975)原生林, 草地ならびに畑地における *Fusarium oxysporum* の検出. 日植病報 41 (1) : 124 (講要)
488. 下山守人(1972)レンゲ萎縮病. 長野県植物防疫史 : 889 - 890
489. 新海 昭(1972)マメ類てんぐ巢病の寄主範囲. 第 1 報. 日植病報 38 (3) : 216 (講要)
490. 塩田弘行・関山英吉・桜井 博(1956)馬鈴薯天狗巢病の寄主範囲に関する研究 (マメ科植物に対する接種試験). 日植病報 21 (1) : 32 (講要)
491. 塩田弘行・関山英吉・西川美智子(1958)馬鈴薯天狗巢病の虫媒伝染に関する研究. 日植病報 23 (1) : 55 (講要)
492. 末次 勲・岩切嶙(1950)紫雲英の研究. 125 p. 養賢堂. 東京.
493. 末次 勲・山崎信蔵・斉藤喜助(1952)紫雲英耐雪性の品種間差異 - 特に *Pythium* 菌に対する抵抗性について. 農及園 27 (10) : 1139
494. 末次 勲・山崎信蔵・斉藤喜助(1954)比重選によるレンゲ菌核除去の効果に関する新知見 (予報). 農及園 29 (9) : 1171 - 1172
495. 末次 勲・山崎信蔵(1957)レンゲ種子中菌核の比重選効果に関する知見と篩別の一試験. 日草誌 2 (1-2) : 85
496. 末次 勲・山崎信蔵・斉藤喜助・土屋 茂・金田忠吉(1960)耐雪飼料レンゲ北陸 1 号. 農及園 35 (4) : 706 - 708
497. 菅原 毅・渡部 仁・村里正八(1965)白斑病 *Leptosphaeria pratensis* Saccardo et Briard に関する研究. 第 1 報. 白クローバに発生する白斑病について. 日植病報 30 (5) : 293 (講要)
498. 菅原 毅・小島昌也・渡部 仁・村里正八(1966)シロクローバ白斑病に関する研究. 第 2 報. 白斑病菌の培養的性質について. 日植病報 32 (5) : 301 (講要)

499. 菅原 毅・渡部 仁・村里正八(1966)茨城県におけるシロクローバの発生病害実態調査. 関東病虫研究会報 13 : 78
500. 菅原 毅・村里正八(1967)シロクローバそばかす病の胞子形成について. 日植病報 33(5) : 314 (講要)
501. 菅原 毅・小島昌也・渡部 仁・村里正八(1967)茨城県におけるシロクローバの発生病害実態調査(II). 関東病虫研究会報 14 : 53
502. 菅原 毅・渡部 仁・小島昌也・村里正八(1968)茨城県におけるシロクローバの発生病害実態調査(III). 関東病虫研究会報 15 : 69
503. 杉本 堯・西原夏樹・若井田正義・寺中理明(1973)関東・東北地方で新たに発見された牧草の病害. 日植病報 39(3) : 192 (講要)
504. 杉信賢一・佐久間 勉・真木芳助(1974)アカクローバ茎割病抵抗性系統の選抜. 日草誌 20 (別号 2) : 56-57
505. 杉信賢一・佐久間 勉・真木芳助(1975)アカクローバ茎割病抵抗性系統の選抜. II. 茎割病感受性程度と他形質との関係. 日草誌 21 (別号 2) : 64-65
506. 杉信賢一(1975)アルファルファの品種. 北海道農試研究資料 6 : 13-58
507. 杉信賢一・島貫忠幸・佐久間 勉・真木芳助(1976)アカクローバ茎割病抵抗性の遺伝. 日草誌 22(4) : 231-235
508. 杉田紳一・福岡寿夫(1978)シロクローバ白網病の抵抗性検定法に関する研究. 東北農業研究 23 : 115-116
509. 杉山正樹(1979)飼料作物病害の現状と問題点. 植物防疫 33(3) : 126-128
510. 鈴木秀夫・佐藤武司(1960)ラジノクローバーの Alfalfa mosaic virus の発生と被害について. 北日本病虫研究会報 11 : 57-59
511. 鈴木信治・稲波 進(1971)アルファルファ(ルーサン)の品種解説. 指定試験. 育種 4 : 1-88
512. 鈴木信治・稲波 進(1974)アルファルファの新品種ナツワカバの育成. 愛知農総試研報A. 6 : 21-31
513. 鈴木幸雄(1958)紫雲英キンカク病の系統について. 北陸病虫研究会報 6 : 21
514. 正田宏二・小室康雄・明日山秀文(1953)alfalfa モザイクウイルスに関する研究.
1. alfalfa から分離されたウイルスの寄生性と物理的性質. 日植病報 17(2) : 90-91 (講要)
515. 田淵武樹(1965)レンゲうどんこ病菌分生胞子の形成について. 日植病報 30(5) : 297 (講要)
516. 但見明俊(1965)アカクローバ黒かび病病原菌(Rhizoctonia leguminicola)

- からの流れん(涎)因子の単離. 日草誌 11(3): 188 (抄録)
517. 但見明俊(1965)黒かび病原菌(*Rhizoctonia leguminicola*)に侵されたマメ科牧草で飼養した動物の菌類中毒症. 日草誌 11(3): 188 (抄録)
518. 但見明俊(1967)牧草の病害とその防除. 稲と麦 13(2): 17-21
519. 但見明俊(1968)葉の罹病と牧草の品質. 日草誌 14(2): 129-130 (抄録)
520. 但見明俊(1968)アカクローバにおけるクラウンおよび根の腐朽と昆虫および病害の役割. 日草誌 14(2): 129 (抄録)
521. 但見明俊・井沢弘一・西原夏樹・亀岡暄一・大森昭一朗(1969)本邦産マメ科牧草黒かび病菌の投与による山羊の流れん(涎)症について. 日草誌 15(1): 86-87 (講要)
522. 但見明俊(1969)牧草・飼料作物の病害と防除. 畜産コンサルタント 5(5): 58-59
523. 但見明俊(1969)牧草, 飼料作物の病害と防除 2. 畜産コンサルタント 5(6): 60-61
524. 但見明俊(1970)耐病性利用による牧草の病害防除. 畜産コンサルタント 6(5): 10-15
525. 但見明俊(1971)牧草・飼料作物の病害防除. 新農薬 25(3): 15-23
526. 但見明俊(1973)牧草地病害の現況と防除. 今月の農薬 16(12): 17-21
527. 但見明俊(1974)牧草の耐病性と育種-植物病理学の立場から. 育雑 24(1): 52-53
528. 高橋広治・飯田 格(1961)クローバー汚斑病の病原菌について. 北日本病虫研究会報 12: 57-58
529. 高橋広治・飯田 格(1962)クローバー汚斑病菌の侵入ならびに発病に及ぼす 2, 3 の環境要因. 北日本病虫研究会報 13: 78-79
530. 高橋広治・飯田 格(1962)クローバー汚斑病菌の栄養生理について-病原菌の発育とC源ならびに無機N源との関係. 日植病報 17(2): 63 (講要)
531. 高橋広治・飯塚典男・飯田 格(1963)盛岡における牧草病害の種類と発生消長について. 北日本病虫研究会報 14: 60-61
532. 高橋広治・飯田 格(1969)牧草病害に関する研究. II. ラジノクローバーの汚斑病について. 東北農試研報 37: 15-41
533. 高橋良直(1903)紫雲英の新病害. 大日本農会報 264: 12-13
534. 高橋良直(1903)紫雲英の新病害[*Ovularia sphaeroides*]. 中央農事報 43: 46-47
535. 高桑 亮・加藤文一(1960)レッドクローバー銹病の発生に関する 2, 3 の観察.

- 日植病報 25 (5) : 233 (講要)
536. 高松 進・石崎 寛・伊藤 修(1978)三重県のうどんこ病菌とその寄主植物. 日菌報 19 (1) : 65 - 77
 537. 高屋茂雄(1970)アルファルファ子苗による茶園土壌からの *Cylindrocladium* sp. の捕捉. 日植病報 36 (5) : 336 (講要)
 538. 高屋茂雄(1973)茶園土壌中における *Cylindrocladium scoparium* 菌の分布およびそれらの菌の生育異状の有無. 日植病報 39 (3) : 206 (講要)
 539. 滝元清透(1921)レッドクロウアーの細菌性斑点病. 病虫雑 8 (10) : 513 (抄録)
 540. 滝元清透(1930)紫雲英の黒斑病. 病虫雑 17 (11) : 728 - 732
 541. 滝元清透(1938)植物病害実験録(10). 病虫雑 25 (6) : 455 - 459
 542. 玉田哲男(1969)ダイズ矮化ウイルスの系統について. 日植病報 35 (5) : 370 (講要)
 543. 田中一郎・岩垂 悟(1931)サンドベッチ斑点病(予報). 札幌博物会報 11 (4) : 260 - 265
 544. 田中一郎・成田武四(1940)クローバーの新病害に就て(1). 病虫雑 27 (4) : 272 - 276
 545. 田中一郎・成田武四(1940)クローバーの新病害に就て(2). 病虫雑 27 (5) : 326 - 332
 546. 田中一郎・成田武四(1944)北方の農作物病害. 163 p. 北方文化出版社. 東京
 547. 丹田誠之助・佐藤志美雄(1978)山形県庄内地方産うどんこ病菌とその寄主植物. 農学集報 23 (1) : 87 - 89
 548. 谷井昭夫・高桑 亮・成田武四(1968)インゲンかき枯病に関する研究. 第3報. 大豆 クズから分離した *Pseudomonas* 属菌2種. 日植病報 34 (5) : 362 (講要)
 549. 田杉平司・椎野秀蔵(1940)翠菊及び百日草の立枯病. 日植病報 10 (2-3) : 278 - 293
 550. 寺中理明・長江春季・木原清光・篠田辰彦(1969)九州に発生する牧草病害に関する研究(1)阿蘇地方の放牧地に発生する牧草病害. 九州病虫研会報 15 : 18 - 20
 551. 照井陸奥生(1938)紫雲英菌核病防除効果の著例. 病虫雑 25 (7) : 517 - 520
 552. Togashi, K. & Onuma, F. [富樫浩吾・大沼房治] (1934) A list of parasitic fungi collected on Mt. Hayachine, Iwate prefecture 盛岡高農學術報告 22 : 1 - 61
 553. 富樫浩吾・平塚直秀(1937)ノジャップ半島に於ける植物寄生菌類. 札幌農林会報 16 (68) : 73 - 81
 554. 富樫浩吾・雪ノ浦参之助(1937)馬の築川病に關聯する築川村放牧地の植物学的調

査. 162 p. 岩手県. 図版.

- 555. 富樫浩吾(1939)放牧地と寄生菌の問題. 日植病報 9 (2): 134-135
- 556. 富樫浩吾(1940)牧野と植物寄生菌の問題. 植及動 8 (1): 179-186
- 557. 富樫浩吾・香月繁孝(1952) New or note worthy parasitic fungi in Japan. II. 横浜国立大学術報告 Sec. II, 1: 1-7
- 558. 都丸敬一(1963)ホワイトクローバーから分離されたアルファルファモザイクウイルス. 日植病報 28 (5): 283-284 (講要)
- 559. 富永時任(1962)サブタレニアンクローバーの黒カビ病. 日菌報 4 (1): 15
- 560. 富永時任(1962)アルファルファの斑点細菌病. 日植病報 27 (5): 269 (講要)
- 561. 富永時任(1963)牧草, 飼料作物の病害—細菌病. 植物防疫 17 (10): 411-416
- 562. 富永時任(1964)アルファルファの斑点細菌病. 日植病報 29 (3): 162-166 [抄録, 日草誌 12 (1): 49-50. (1966)]
- 563. 富永時任(1965)植物病原菌学名ノート(1). いもち病菌の属名その他. 植物防疫 19 : (11): 468
- 564. 富永時任(1970)飼料作物の病気カラースライド集(天然色病虫害大系 7. 飼料作物の病虫害シリーズ(その1)). 農文協. 東京(カラースライド100, テキスト66p.)
- 565. 富永時任(1971)日本における牧草および飼料作物の病害に関する研究. I. 関東東山地域の牧草および飼料作物の病害調査. 農技研報告 C. 25 : 189-204
- 566. 富永時任(1971)日本における牧草および飼料作物の病害に関する研究. II. 日本における牧草および飼料作物細菌病の病原学的研究. 農技研報告 C. 25 : 205-306
- 567. 土屋貞夫・佐久間 勉・成田武四(1966)赤クローバ黒葉枯病の発生経過と被害の実態について. 北日本病虫害研究会報 17 : 60
- 568. 土屋貞夫・成田武四・尾崎政春(1967)赤クローバ黒葉枯病について. 日植病報 33 (3): 84 (講要)
- 569. 土屋貞夫・尾崎政春(1967)根釧地方に発生する牧草病害. 北農 34 (11): 34-49
- 570. 土屋貞夫・尾崎政春・成田武四(1968)アカクローバ黒葉枯病の発生生態. 日植病報 34 (5): 363 (講要)
- 571. 土屋貞夫・尾崎政春・成田武四(1969)アカクローバ黒葉枯病病原菌の寄生性について. 日植病報 35 (5): 374 (講要)
- 572. 土屋貞夫・尾崎政春・成田武四(1970)アカクローバ黒葉枯病の発生生態および防除に関する研究. 第1報. 根釧地方におけるアカクローバ黒葉枯病の発生経過と病原菌子のう盤の成熟との関係. 北海道立農試集報 20 : 95-100
- 573. 土屋貞夫・尾崎政春・成田武四(1970)アカクローバ黒葉枯病菌の寄主体侵入経過

- について、日植病報 36(3) : 167 - 168 (講要)
574. 土屋貞夫・尾崎政春(1971)アカクローバ黒葉枯病の発生と採草量および飼料価値との関係、日植病報 37(3) : 168 (講要)
575. 土谷三之助(1971)アルファルファ・ヘイキューブの輸入激増、名古屋植防月報 109 : 3
576. 土屋 茂(1960)飼料レンゲ栽培の問題点 — 北陸地域を中心として、日畜学会北陸支部参考資料 2 : 1 - 5
577. 上野昌彦・吉原 潔・川鍋祐夫・岡田忠篤・日高雅子(1962)牧草根の機能に関する研究、IV、マメ科牧草の主根の生長について、日草誌 8(2) : 151 (講要)
578. 上野昌彦・吉原 潔・川鍋祐夫・岡田忠篤・日高雅子(1964)牧草根の機能に関する研究、V、"根ぐされ"防除試験、日草誌 9(2) : 123 (講要)
579. 上野昌彦・吉原 潔・川鍋祐夫・岡田忠篤・日高雅子(1965)マメ科牧草の根に関する研究、第1報、3種牧草の主根の生存について、日草誌 11(2) : 110 - 114
580. 上野昌彦・吉原 潔(1967)マメ科牧草の根に関する研究、第2報、根ぐされについての二・三の観察、日草誌 12(4) : 198 - 201
581. 上野昌彦(1970)ラジノクローバの永続性と根のはたらき、農林省畜試年報 9 (昭和44年度) : 117 - 126
582. 和田久美子・平田幸治(1977)日本のうどんこ病菌とその寄主植物、新潟大農研報 29 : 77 - 114
583. 渡辺文吉郎(1963)白紋羽病の生態ならびに防除に関する研究、農林水産技術会議事務局・茨城農試指定試験(病虫害) 3 : 1 - 110
584. 渡辺文吉郎・松田 明(1966)畑作物に寄生する *Rhizoctonia solani* Kühn の類別に関する研究、技術会議事務局・茨城農試指定試験(病虫害) 7 : 1 - 131.
- 図版
585. 渡辺亀彦・中嶋紘一・堀内慎一(1969)アルファルファ主要品種の収量と維持年限の比較、日草誌 15(2) : 112 - 120
586. 渡辺亀彦・中嶋紘一(1969)アルファルファ炭そ病抵抗性の簡易検定法、I、幼苗の室内検定法及び切枝による成体の検定法、日草誌 15(1) : 86 (講要)
587. 渡辺亀彦・中嶋紘一(1970)アルファルファ炭そ病抵抗性の簡易検定法、II、つみ取った葉による室内検定、日草誌 16(1) : 67 (講要)
588. 渡辺亀彦(1970)アルファルファ炭そ病抵抗性の室内検定法、農林省畜試年報 8 (昭和43年度) : 96 - 97
589. 渡辺亀彦(1970)アルファルファ炭そ病の簡易検定法 — つみとった葉による検定、

農林省畜試年報 9 (昭 44 年度) : 84 - 85

590. 渡辺亀彦(1972)アルファルファ炭そ病の簡易検定法. 草地試ニュース 4 : 3
591. 山田豊一(1963)牧草の栽培と利用. 372 p. 養賢堂, 東京
592. 山田豊一(1963)畜産振興と飼料作物. 植物防疫 17 (10) : 385 - 388
593. 山田豊一(1971)今後の病虫害防除に望む. 植物防疫 25 (1) : 33 - 34
594. 山本 勉・江塚昭典・岡本 弘・桜井義郎(1963)中国地域における牧草, 飼料作物の病害について. 中国農試報告 A, 9 : 135 - 149
595. 山本和太郎(1959)日本における菌核病菌科の種類. 日菌報 2 (2) : 2 - 8
596. 山本和太郎・前田巳之助(1960)日本における *Cercospora* 属の種類. 兵庫農大研報. 農業生物編 4 (2) : 41 - 91
597. 山本和太郎(1960)日本における *Alternaria* と *Stemphylium* に属する同種異名の種類. 日菌報 2 (5) : 88 - 93
598. 山本和太郎・前田巳之助(1960)農作物の立枯病または菌根腐病を起こす *Pythium spinosum* Sawada の接種試験. 日植病報 26 (5) : 226 (講要)
599. 山本和太郎・前田巳之助(1961)農作物の立枯病又は根腐病を起す *Pythium spinosum* Sawada の研究, 特に寄主植物の範囲と地理的分布. 兵庫農大研報, 農業生物編 5 (1) : 13 - 25
600. 山本和太郎(1962)農作物の立枯病または根腐病を起こす *Pythium spinosum* 植物防疫 16 (4) : 163 - 166
601. 山本義彦・岩山新二・斉藤英策(1930)紫雲英の一新病害, 汚斑病に就て. 18 p. 富山農試
602. 山本義彦・斉藤英策(1931)紫雲英種子中に潜在せる菌類に就て. 農及園 6 (7) : 1051 - 1054
603. 山本義彦・関 正作(1935)紫雲英菌核病菌核の 2, 3 酵素の検索. 植及動 3 (8) : 1457 - 1459
604. 横木国臣(1932)山葵, せうが, 苜蓿の病害管見. 島根農会報 408 : 30 - 34
605. 横木国臣(1938)緑肥の新病害, 苜蓿の炭疽病に就て. 島根農会報 503 : 32 - 35
606. 横木国臣(1939)苜蓿炭疽病に就て. 病虫雑 26 (10) : 733 - 740
607. 吉田桂輔・横山佐太正・川口俊春・田中 実(1966)CNA 剤のマメ科牧草菌核病に対する防除効果. 日植病報 32 (2) : 106 (講要)
608. [吉原 潔・西原夏樹](1960)長野県における牧草生育障害の実態(第 1 報) : 1 - 38. 長野県農地経済部畜産課
609. 吉井 甫(1929)紫雲英の斑点病について. 病虫雑 16 (9) : 533 - 537

- 610. 吉村彰治・鈴木幸雄(1961)レンゲの萎縮症について. 北陸病虫研究会報 **9** : 76-77
- 611. 吉村彰治・斉藤 正・鈴木幸雄・吉野嶺一(1963)レンゲ菌核病の薬剤防除について. 'その 1'. 日植病報 **28** (2) : 95 (講要)
- 612. 吉村彰治・斉藤 正・鈴木幸雄・吉野嶺一・金津皎代(1963)レンゲ菌核病の薬剤防除について. 第 1 報. 種子消毒および水銀粉剤の散布効果. 北陸病虫研究会報 **11** : 50-54
- 613. 吉村彰治・岩田和夫(1964)ラジノクローバー白絹病の薬剤防除について. 北陸病虫研究会報 **12** : 73-74
- 614. 柚木利文・小林 尚(1970)異常発生した牧草の病害虫. 東北農試たより **2** : 2-3
- 615. 無名氏(1913)クローバーの新病害. 日本農業雑誌 **9** (6) : 49-51